

岡山県感染症週報 2015年 第29週 (7月13日～7月19日)

◆2015年 第29週 (7/13～7/19) の感染症発生動向 (届出数)

■全数把握感染症の発生状況

第27週 2類感染症 結核 1名(80代 女)

5類感染症 梅毒 1名(20代 男)

第28週 2類感染症 結核 2名(70代 男 1名、80代 男 1名)

5類感染症 急性脳炎 1名(幼児 男)

第29週 2類感染症 結核 5名(30代 男 1名、60代 男 1名、70代 女 2名、80代 女 1名)

■定点把握感染症の発生状況

○手足口病は、県全体で425名(定点あたり5.13→7.87人)の報告があり、前週より増加しました。

○ヘルパンギーナは、県全体で165名(定点あたり2.52→3.06人)の報告があり、前週より増加しました。






○流行性耳下腺炎は、県全体で37名(定点あたり0.46→0.69人)の報告があり、前週より増加しました。

美作地域では、ひきつづき発生レベル2となっています。

1. **手足口病**は、県全体で425名(定点あたり5.13→7.87人)の報告があり、前週より増加しました。地域別では、岡山市(14.00人)、備北地域(8.50人)、倉敷市(8.27人)の順で定点あたり報告数が多くなっています。県内の発生状況など、詳しくは「今週の注目感染症」をご覧ください。
2. **ヘルパンギーナ**は、県全体で165名(定点あたり2.52→3.06人)の報告があり、前週より増加しました。地域別では、岡山市(4.71人)、備中地域(4.00人)、倉敷市(3.73人)の順で定点あたり報告数が多くなっています。全国の第28週発生状況は、定点あたり報告数が2.65人と9週連続で増加しました。全国的に患者が増加しており、都道府県別では、三重県(10.60人)、愛媛県(7.70人)、福岡県(7.31人)の順で定点あたり報告数が多くなっています。この感染症は、例年7～8月頃が流行のピークとなりますので、今後の発生状況に注意するとともに、患者との濃厚な接触を避け、うがいや手洗い、手指の消毒など、感染予防に努めましょう。
3. **流行性耳下腺炎**は、県全体で37名(定点あたり0.46→0.69人)の報告があり、前週より増加しました。地域別では、前週にひきつづき美作地域(4.67人)で患者数が多くなっており、大きな流行が発生する可能性がある「発生レベル2」となっています。この感染症は、ムンプスウイルスによるもので、「おたふくかぜ」とも呼ばれています。予後は一般に良好ですが、まれに無菌性髄膜炎、感音性難聴、精巣炎などの合併症を引き起こすことがあります。年齢が高くなるにつれて症状が重くなる傾向があります。有効な特効薬はなく、治療は対症療法が中心で、効果的に予防する唯一の方法は、ワクチンを接種することです。

流行の推移と発生状況

疾病名	推移	発生状況	疾病名	推移	発生状況
インフルエンザ	↓		RSウイルス感染症	↓	★
咽頭結膜熱	↘	★	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	↘	★★
感染性胃腸炎	→	★★	水痘	↗	★
手足口病	↗	★★★★	伝染性紅斑	↓	★★
突発性発疹	→	★	百日咳	→	
ヘルパンギーナ	↗	★★	流行性耳下腺炎	↗	★
急性出血性結膜炎	→		流行性角結膜炎	↑	★
細菌性髄膜炎	→		無菌性髄膜炎	→	
マイコプラズマ肺炎	↑	★	クラミジア肺炎	→	
感染性胃腸炎(ロタウイルス)	→	* 感染性胃腸炎(ロタウイルス)については、2013年第42週から報告対象となったため、前週からの推移のみ表示しています。			

【記号の説明】 前週からの推移：
 : 2倍以上の減少
 : 1.1～2倍未満の減少
 : 1.1未満の増減
 : 1.1～2倍未満の増加
 : 2倍以上の増加

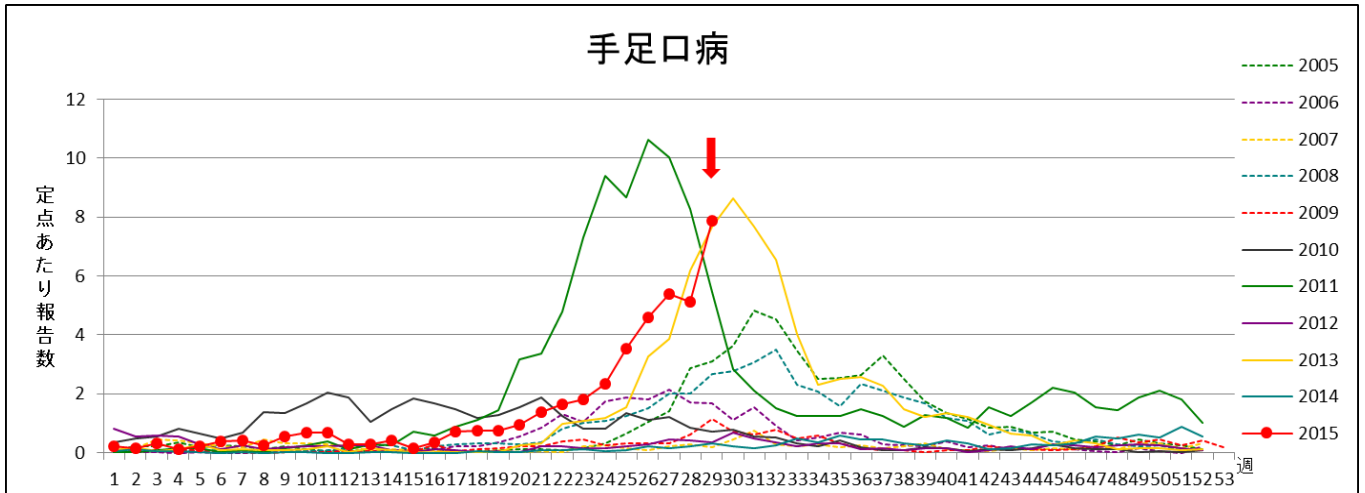
発生状況：今週の流行状況を過去5年間と比較し、5段階で表示しています。

空白：発生なし ★：僅か ★★：少し ★★★：やや多い ★★★★：多い ★★★★★：非常に多い

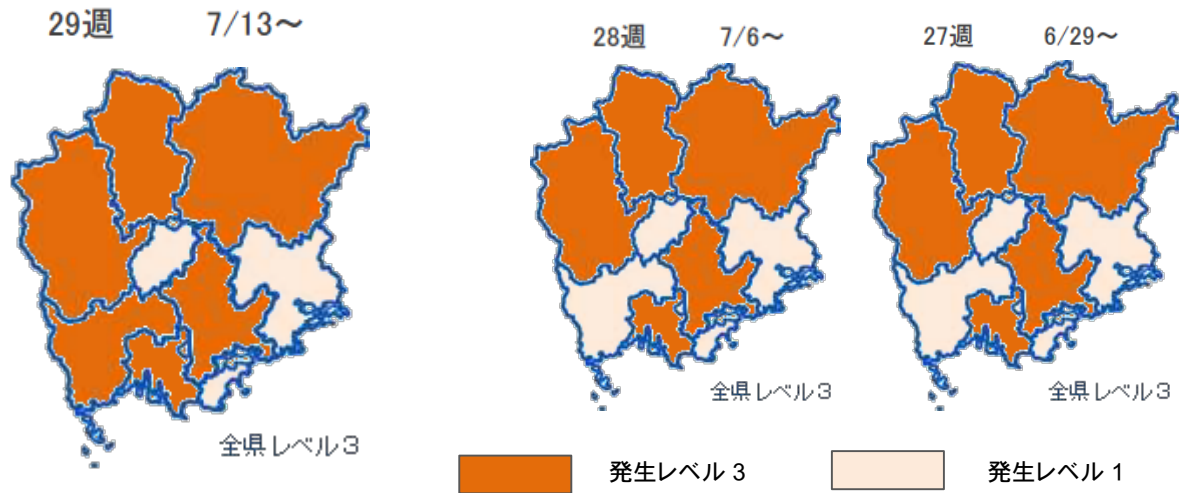
今週の注目感染症

手足口病

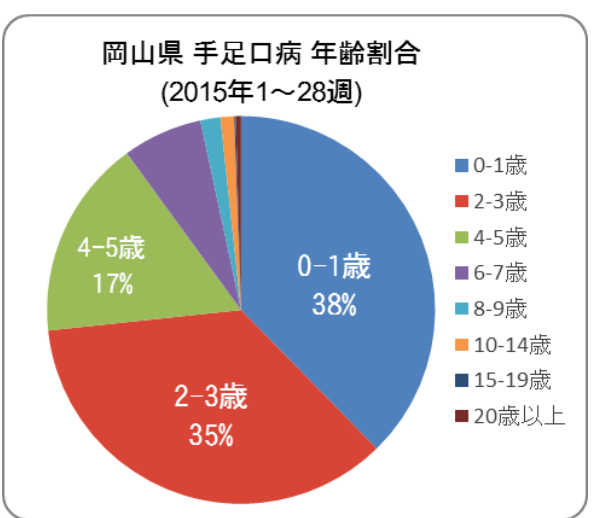
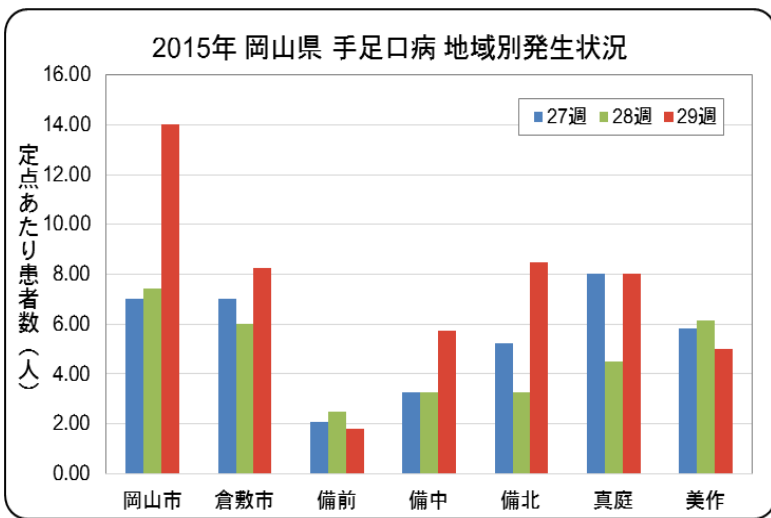
【岡山県の発生状況】



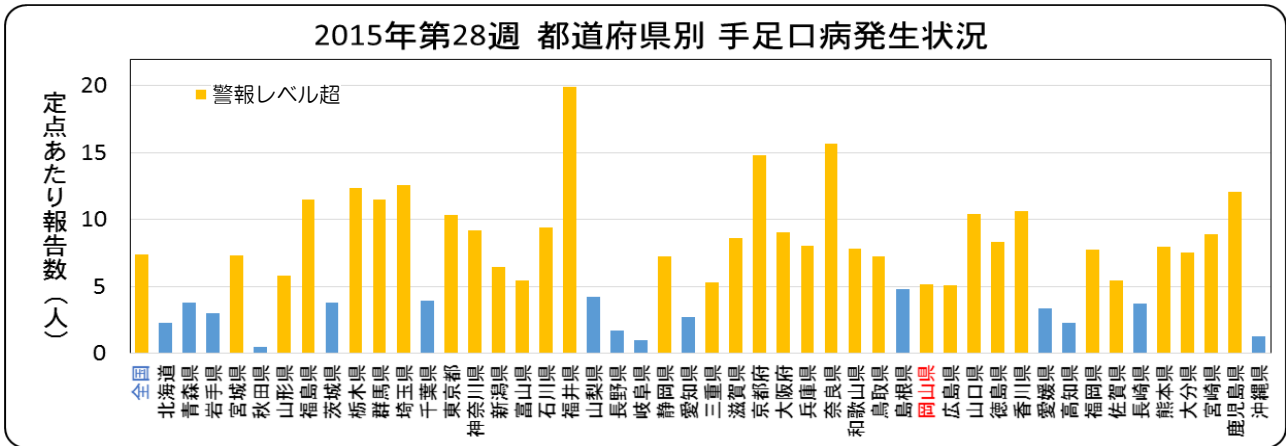
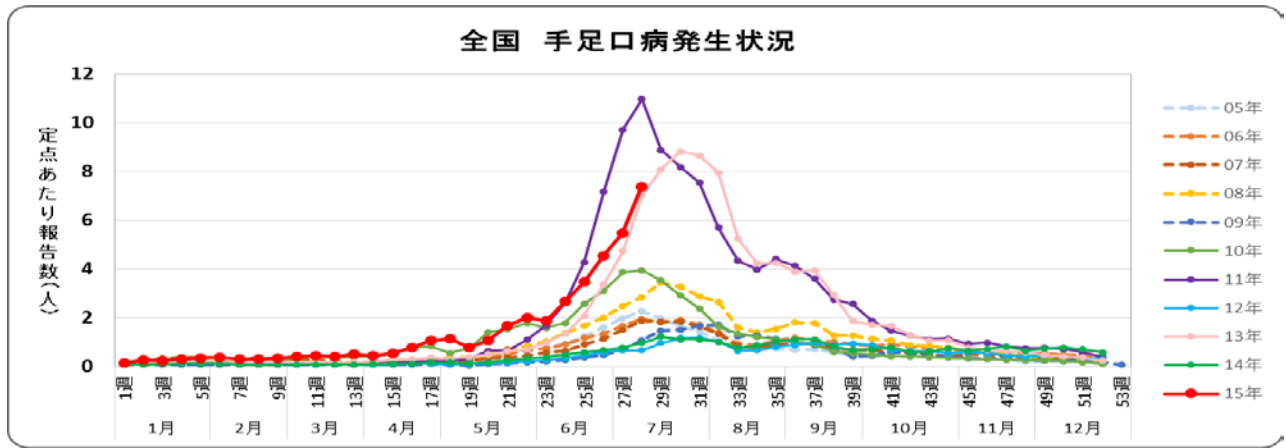
岡山県地区別 手足口病感染症マップ



手足口病は、県全体で425名（定点あたり5.13→7.87人）の報告があり、前週より増加しました。過去10年間の同時期と比較して最も多くなっており、県全体の発生レベルは、ひきつづきレベル3で推移しています。地域別では、定点あたり報告数が岡山市で14.00人と最も多く、次いで備北地域（8.50人）、倉敷市（8.27人）の順で多くなっており、備前を除く全ての地域で、発生レベル3となっています。年齢別では、3歳以下の乳幼児が全体の73%を占めています。例年、7～8月頃に流行がピークとなりますので、ひきつづき県内の発生状況に注意してください。



【全国の発生状況】



全国の第28週の発生状況は、定ポイントあたり7.39人で、5週連続で増加しています。都道府県別では、福井県（19.91人）、京都府（14.78人）、奈良県（15.71人）の順で定ポイントあたり報告数が多くなっており、32都府県で警報レベルを超える流行となっています。

2015年7月17日までに報告された全国の手足口病患者から検出されたウイルスは、コクサッキーウイルスA16型（56%）が最も多く、次いでコクサッキーウイルスA6型（23%）となっています。

[IDWR 速報データ 2015年第28週（国立感染症研究所）](#)

【手足口病とは】

夏に乳幼児を中心に流行する急性ウイルス性感染症です。コクサッキーウイルス、エンテロウイルスなどが原因となります。主な感染経路は、咳やくしゃみに含まれるウイルスを吸い込む飛沫感染や、水疱の内容物や便中に排出されたウイルスが手指を介して口に入る経口感染、ウイルスが付いた手で眼や鼻などの粘膜に触れることによる接触感染です。症状は、3～5日の潜伏期間の後、軽度の発熱とともに、口の粘膜、手のひら、足の甲や裏に2～3mmの水疱性発疹が出現するのが特徴です。3～7日で水疱が消え、通常、予後は良好ですが、まれに髄膜炎、脳炎を起こすことがあります。特に、エンテロウイルス71型による手足口病は、中枢神経系合併症など、重症化する割合が高いと言われています。患者との濃厚な接触を避け、うがいや手洗い・手指の消毒・排泄物の適切な処理など、感染予防に努めましょう。

[手足口病とは（国立感染症研究所）](#)

手足口病・ヘルパンギーナなど、夏に流行が見られる感染症が多く発生しています。

○どちらの感染症も、特別な治療法はなく、対症療法が中心となります。口の中に水疱ができ食事を取りにくい場合、柔らかい薄味の食事など工夫をし、こまめな水分補給を心がけましょう。

○保育園や幼稚園では集団発生することがあります。うがい・手洗いを励行するとともに、おむつや便の取り扱い時には使い捨てのマスクやゴム手袋を着けるなど、感染予防に努めましょう。

○通常、予後は良好な感染症ですが、まれに重症化することがあります。お子さんの状態に注意し、症状が悪化した場合は早めに医療機関を受診しましょう。

保健所別報告患者数(定点把握) 2015年 29週

(2015/07/13～2015/07/19)

2015年7月23日

疾病名	全県		岡山市		倉敷市		備前		備中		備北		真庭		美作	
	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当
インフルエンザ	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
RSウイルス感染症	2	0.04	1	0.07	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	0.17
咽頭結膜熱	10	0.19	4	0.29	-	-	2	0.20	1	0.14	-	-	-	-	3	0.50
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	40	0.74	8	0.57	12	1.09	1	0.10	2	0.29	1	0.25	3	1.50	13	2.17
感染性胃腸炎	273	5.06	57	4.07	72	6.55	53	5.30	23	3.29	22	5.50	3	1.50	43	7.17
水痘	16	0.30	7	0.50	4	0.36	3	0.30	-	-	1	0.25	1	0.50	-	-
手足口病	425	7.87	196	14.00	91	8.27	18	1.80	40	5.71	34	8.50	16	8.00	30	5.00
伝染性紅斑	10	0.19	7	0.50	2	0.18	-	-	-	-	1	0.25	-	-	-	-
突発性発疹	16	0.30	5	0.36	7	0.64	2	0.20	1	0.14	1	0.25	-	-	-	-
百日咳	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
ヘルパンギーナ	165	3.06	66	4.71	41	3.73	19	1.90	28	4.00	10	2.50	1	0.50	-	-
流行性耳下腺炎	37	0.69	3	0.21	5	0.45	1	0.10	-	-	-	-	-	-	28	4.67
急性出血性結膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
流行性角結膜炎	5	0.42	5	1.00	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
細菌性髄膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
無菌性髄膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
マイコプラズマ肺炎	1	0.20	1	1.00	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
クラミジア肺炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
感染性胃腸炎(ロタウイルス)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

(- : 0 or 0.00) (空白 : 定点なし)

保健所別報告患者数（発生レベル設定疾患）2015年 29週

（2015/07/13～2015/07/19）

2015年7月23日

疾病名	全県		岡山市		倉敷市		備前		備中		備北		真庭		美作	
	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当
インフルエンザ	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
咽頭結膜熱	10	0.19	4	0.29	-	-	2	0.20	1	0.14	-	-	-	-	3	0.50
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	40	0.74	8	0.57	12	1.09	1	0.10	2	0.29	1	0.25	3	1.50	13	2.17
感染性胃腸炎	273	5.06	57	4.07	72	6.55	53	5.30	23	3.29	22	5.50	3	1.50	43	7.17
水痘	16	0.30	7	0.50	4	0.36	3	0.30	-	-	1	0.25	1	0.50	-	-
手足口病	425	7.87	196	14.00	91	8.27	18	1.80	40	5.71	34	8.50	16	8.00	30	5.00
伝染性紅斑	10	0.19	7	0.50	2	0.18	-	-	-	-	1	0.25	-	-	-	-
百日咳	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
ヘルパンギーナ	165	3.06	66	4.71	41	3.73	19	1.90	28	4.00	10	2.50	1	0.50	-	-
流行性耳下腺炎	37	0.69	3	0.21	5	0.45	1	0.10	-	-	-	-	-	-	28	4.67
急性出血性結膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
流行性角結膜炎	5	0.42	5	1.00	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

濃黄セルに赤字は岡山県地区別感染症マップにおいて、レベル3
薄黄セルに黒数字は岡山県地区別感染症マップにおいて、レベル2 を示しています。

感染症発生動向調査 週情報 報告患者数 年齢別 (2015年 第29週 2015/07/13~2015/07/19)

疾病名	合計	-6ヶ月-12ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10-14	15-19	20-29	30-39	40-49	50-59	60-69	70-79	80~
インフルエンザ	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

疾病名	合計	-6ヶ月-12ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10-14	15-19	20~	
RSウイルス感染症	2	1	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
咽頭結膜熱	10	-	3	1	3	1	1	1	-	-	-	-	-	-	
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	40	-	1	1	3	5	2	10	5	2	2	-	4	-	5
感染性胃腸炎	273	9	14	51	26	20	25	20	13	15	4	8	23	8	37
水痘	16	-	1	3	2	1	1	3	1	1	-	2	1	-	-
手足口病	425	7	30	123	79	71	44	33	14	8	5	4	5	1	1
伝染性紅斑	10	-	-	1	1	-	3	2	1	-	-	1	-	-	1
突発性発疹	16	-	5	7	4	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
百日咳	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
ヘルパンギーナ	165	-	8	48	25	27	27	15	2	6	2	1	2	1	1
流行性耳下腺炎	37	-	-	-	4	2	7	16	4	2	1	1	-	-	-

疾病名	合計	-6ヶ月-12ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10-14	15-19	20-29	30-39	40-49	50-59	60-69	70~	
急性出血性結膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
流行性角結膜炎	5	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	1	-	1

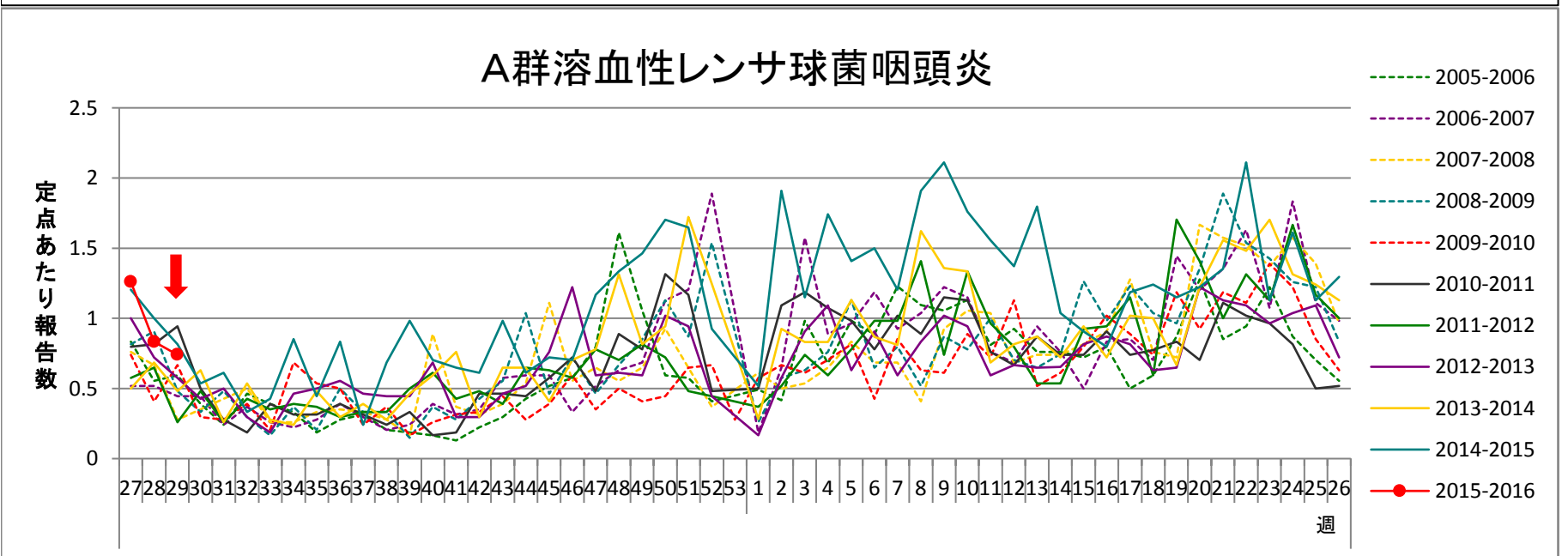
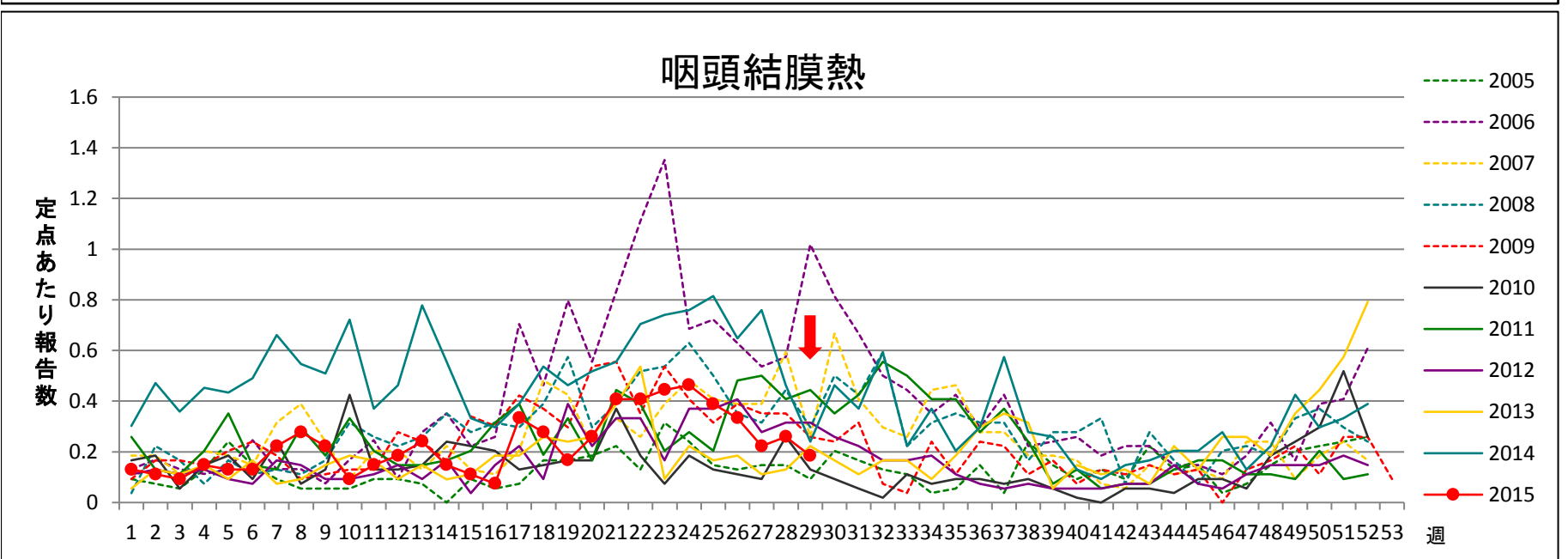
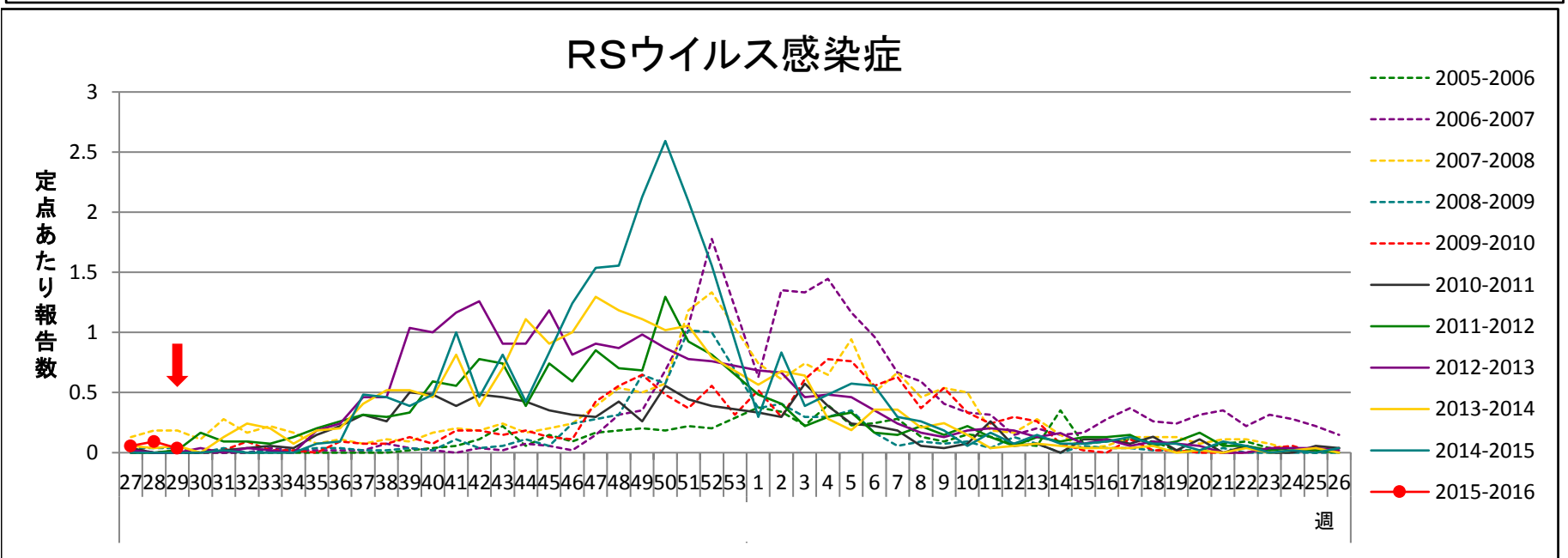
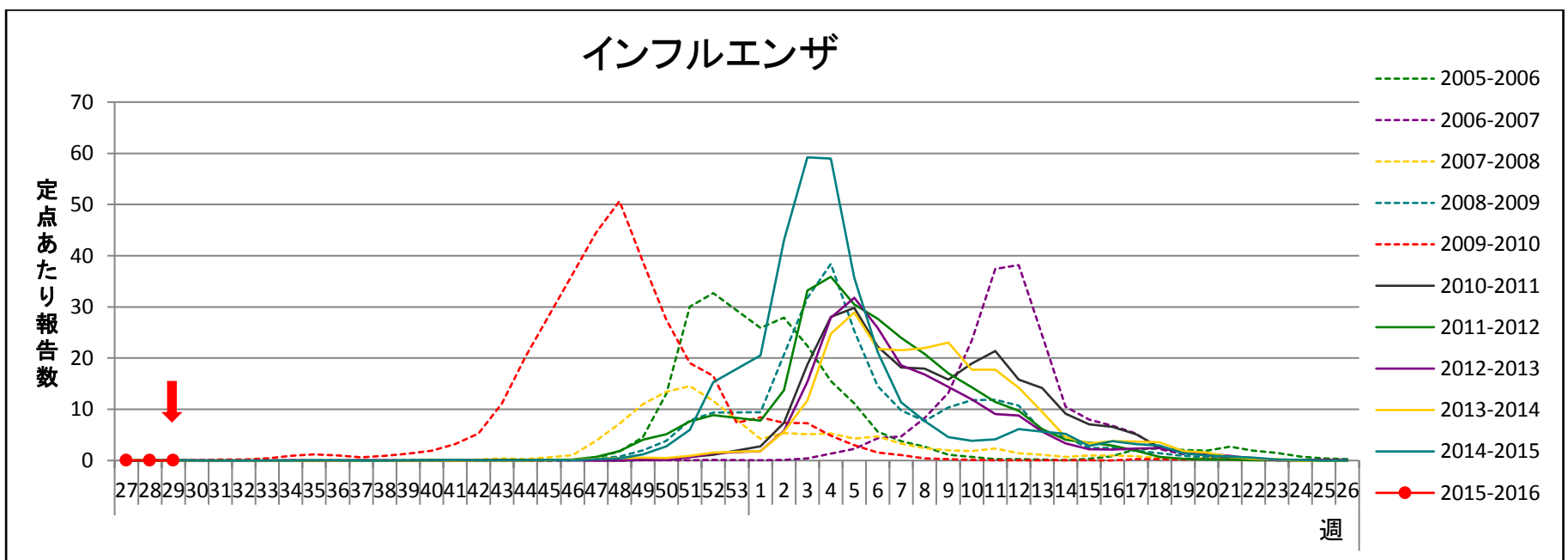
疾病名	合計	0歳	1-4	5-9	10-14	15-19	20-24	25-29	30-34	35-39	40-44	45-49	50-54	55-59	60-64	65-69	70~
細菌性髄膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
無菌性髄膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
マイコプラズマ肺炎	1	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
クラミジア肺炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
感染性胃腸炎(ロタウイルス)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

(- : 0)

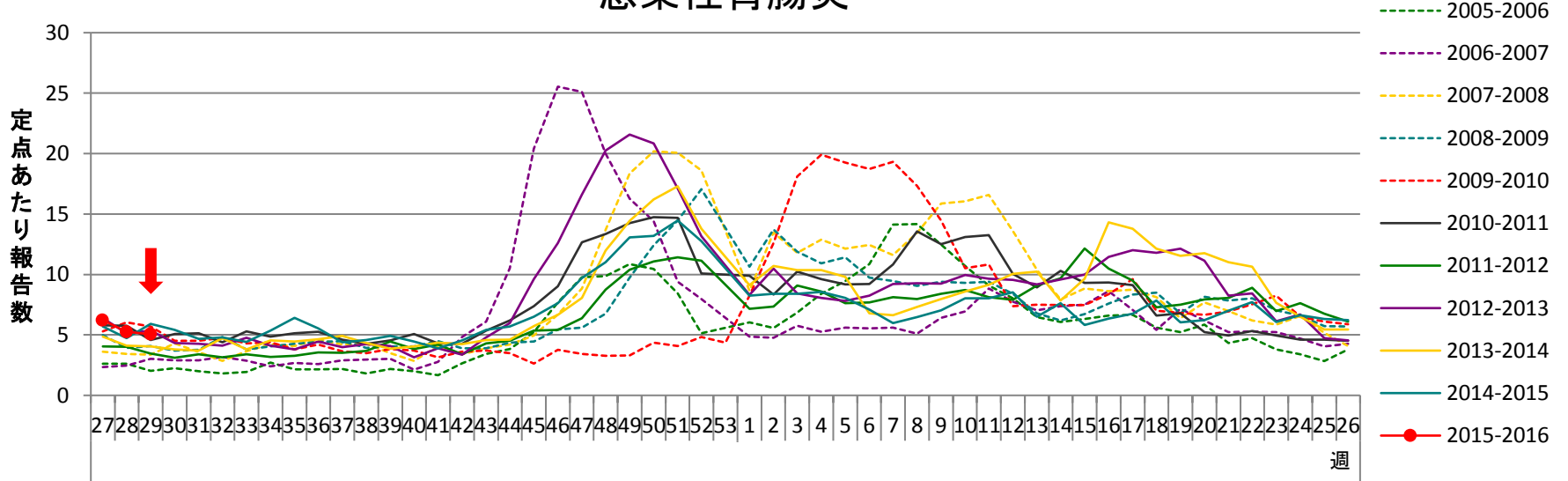
全数把握 感染症患者発生状況

2015年 29週

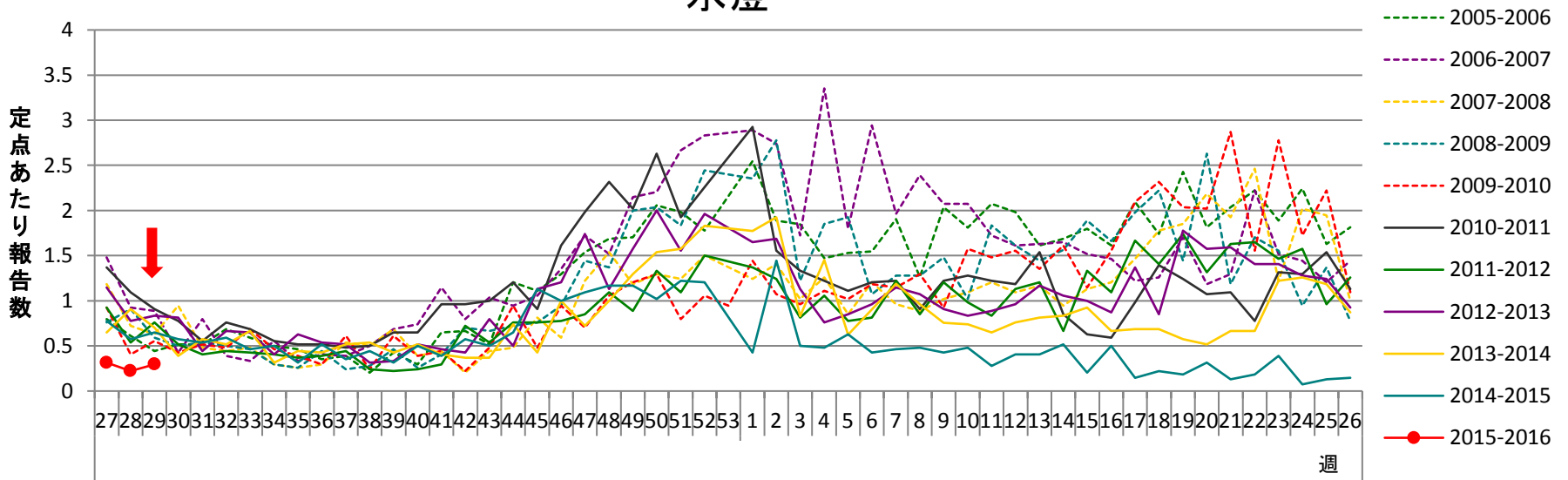
分類	疾病名	2015		2014	疾病名	2015		2014	疾病名	2015		2014
		今週	累計	昨年		今週	累計	昨年		今週	累計	昨年
一類	エボラ出血熱	-	-	-	クリミア・コンゴ出血熱	-	-	-	痘そう	-	-	-
	南米出血熱	-	-	-	ペスト	-	-	-	マールブルグ病	-	-	-
	ラッサ熱	-	-	-		-	-	-		-	-	-
二類	急性灰白髄炎	-	-	-	結核	5	181	384	ジフテリア	-	-	-
	重症急性呼吸器症候群	-	-	-	中東呼吸器症候群	-	-	-	鳥インフルエンザ(H5N1)	-	-	-
	鳥インフルエンザ(H7N9)	-	-	-		-	-	-		-	-	-
三類	コレラ	-	-	-	細菌性赤痢	-	1	-	腸管出血性大腸菌感染症	-	11	71
	腸チフス	-	-	-	パラチフス	-	-	-		-	-	-
四類	E型肝炎	-	2	2	ウエストナイル熱	-	-	-	A型肝炎	-	6	8
	エキノコックス症	-	-	-	黄熱	-	-	-	オウム病	-	1	-
	オムスク出血熱	-	-	-	回帰熱	-	-	-	キャサヌル森林病	-	-	-
	Q熱	-	-	-	狂犬病	-	-	-	コクシジオイデス症	-	-	-
	サル痘	-	-	-	重症熱性血小板減少症候群	-	-	2	腎症候性出血熱	-	-	-
	西部ウマ脳炎	-	-	-	ダニ媒介脳炎	-	-	-	炭疽	-	-	-
	チクングニア熱	-	-	-	つつが虫病	-	-	2	デング熱	-	-	1
	東部ウマ脳炎	-	-	-	鳥インフルエンザ	-	-	-	ニパウイルス感染症	-	-	-
	日本脳炎	-	-	-	日本紅斑熱	-	-	4	ハンタウイルス肺症候群	-	-	-
	Bウイルス病	-	-	-	鼻疽	-	-	-	ブルセラ症	-	-	-
	ベネズエラウマ脳炎	-	-	-	ヘンドラウイルス感染症	-	-	-	発しんチフス	-	-	-
	ポツリヌス症	-	-	-	マラリア	-	1	-	野兎病	-	-	-
	ライム病	-	-	-	リッサウイルス感染症	-	-	-	リフトバレー熱	-	-	-
	類鼻疽	-	-	-	レジオネラ症	-	13	32	レプトスピラ症	-	-	-
	ロッキー山紅斑熱	-	-	-		-	-	-		-	-	-
	五類	アメーバ赤痢	-	11	12	ウイルス性肝炎*3	-	4	7	カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染	-	22
急性脳炎*4		-	10	9	クリプトスポリジウム症	-	1	-	クロイツフェルト・ヤコブ病	-	-	1
劇症型溶血性レンサ球菌感染症		-	-	3	後天性免疫不全症候群	-	14	21	ジアルジア症	-	-	1
侵襲性インフルエンザ菌感染症		-	1	2	侵襲性髄膜炎菌感染症	-	-	-	侵襲性肺炎球菌感染症	-	20	27
水痘(入院例に限る。)		-	2	6	先天性風しん症候群	-	-	-	梅毒	-	9	21
播種性クリプトコックス症		-	1	1	破傷風	-	-	1	バンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌感染	-	-	-
バンコマイシン耐性腸球菌感染症		-	-	2	風しん	-	-	2	麻しん	-	-	6
薬剤耐性アシネトバクター感染症		-	-	-		-	-	-		-	-	-



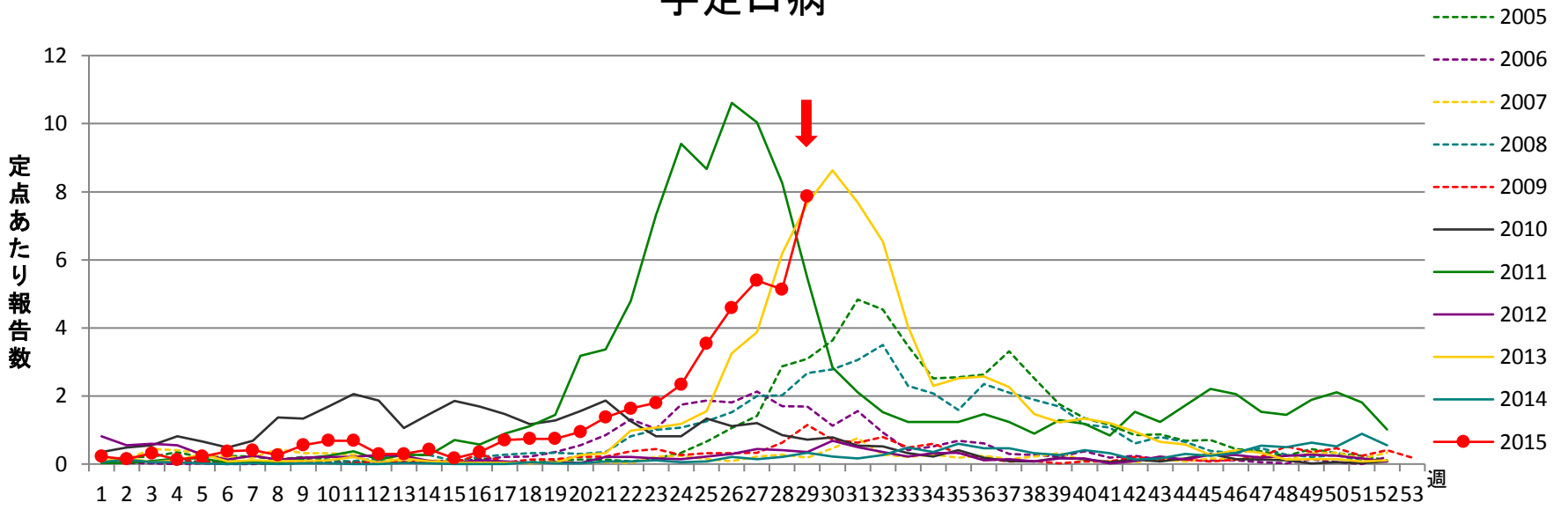
感染性胃腸炎



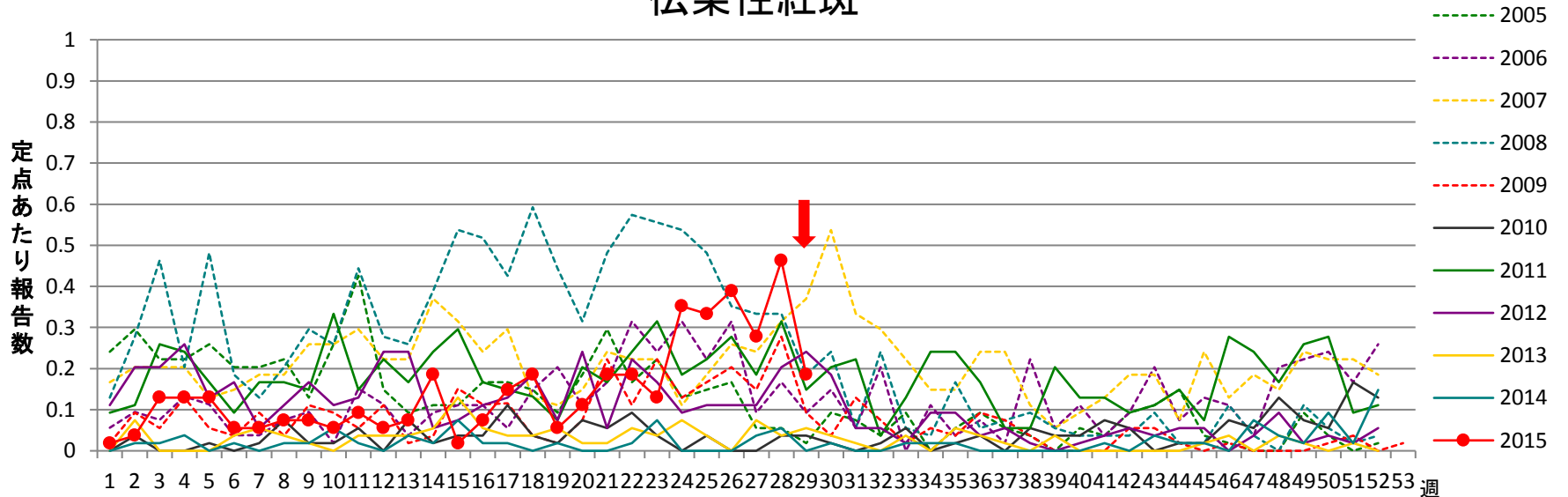
水痘



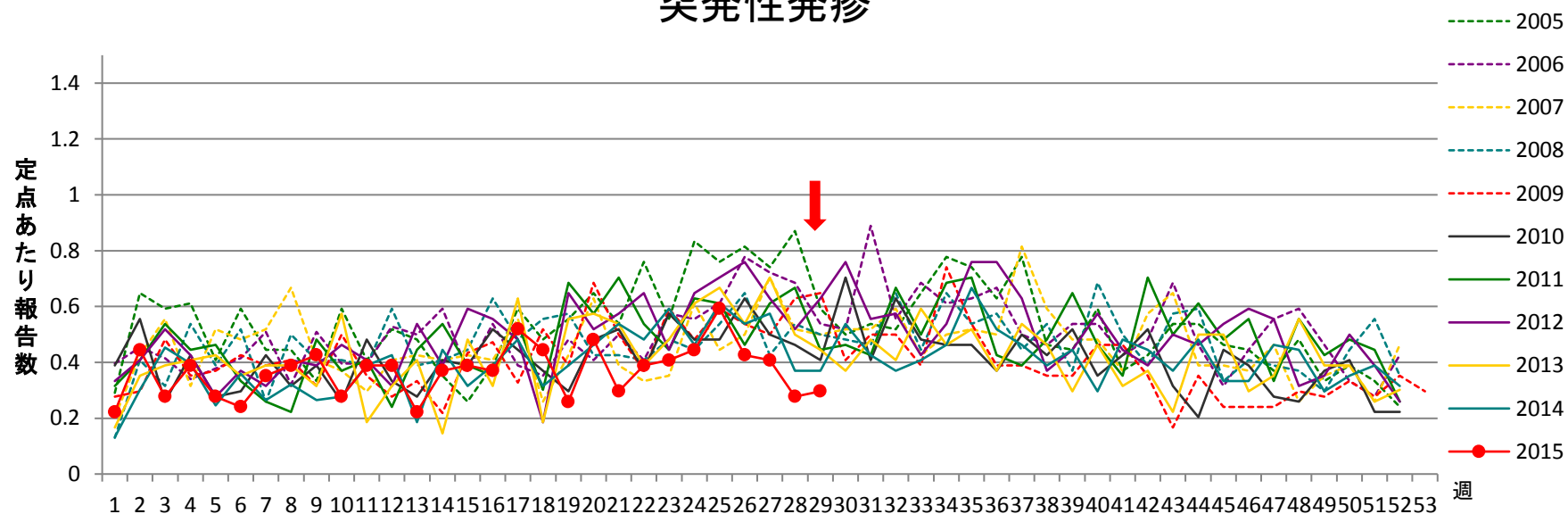
手足口病



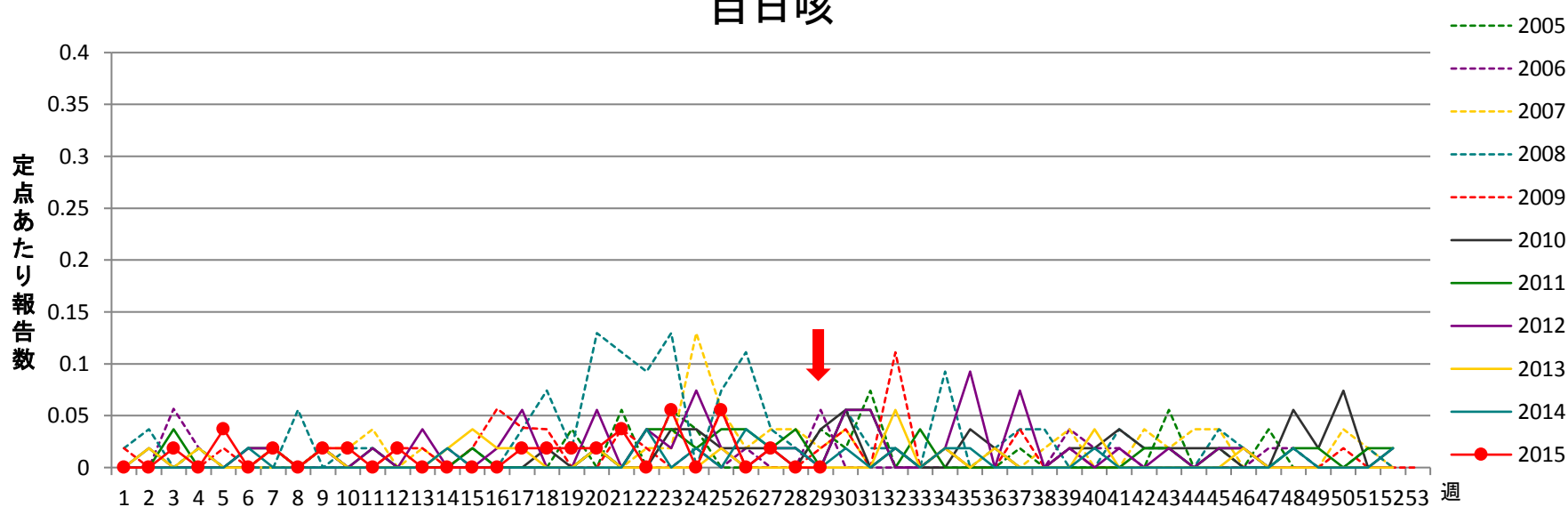
伝染性紅斑



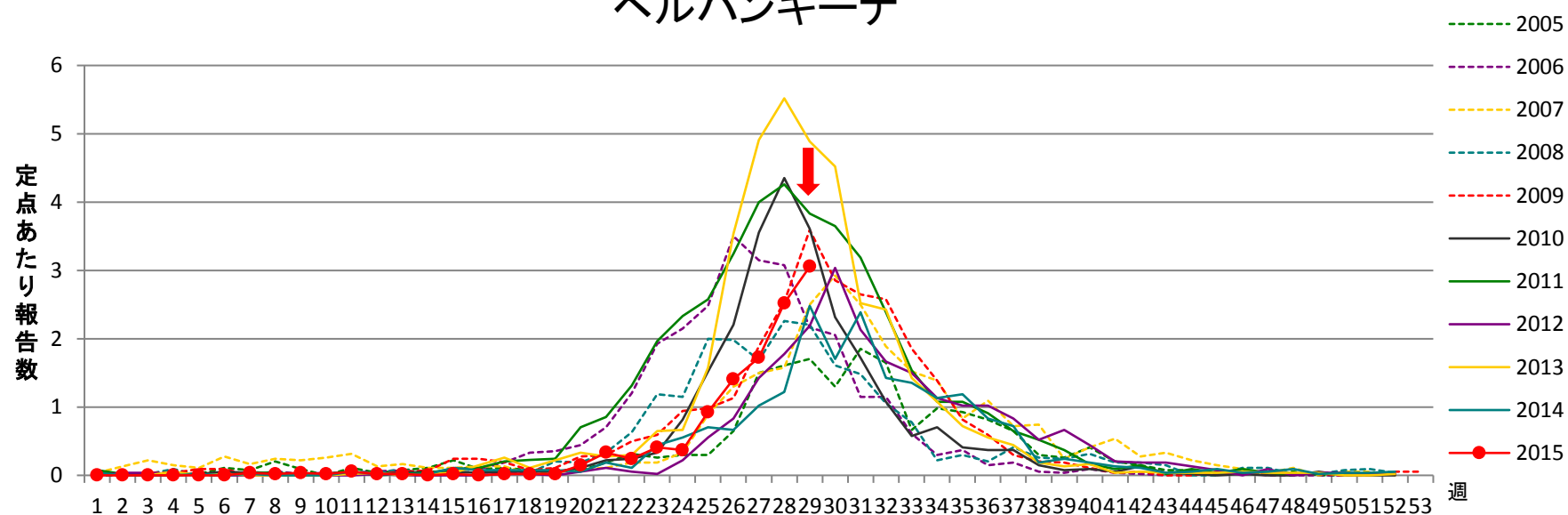
突発性発疹



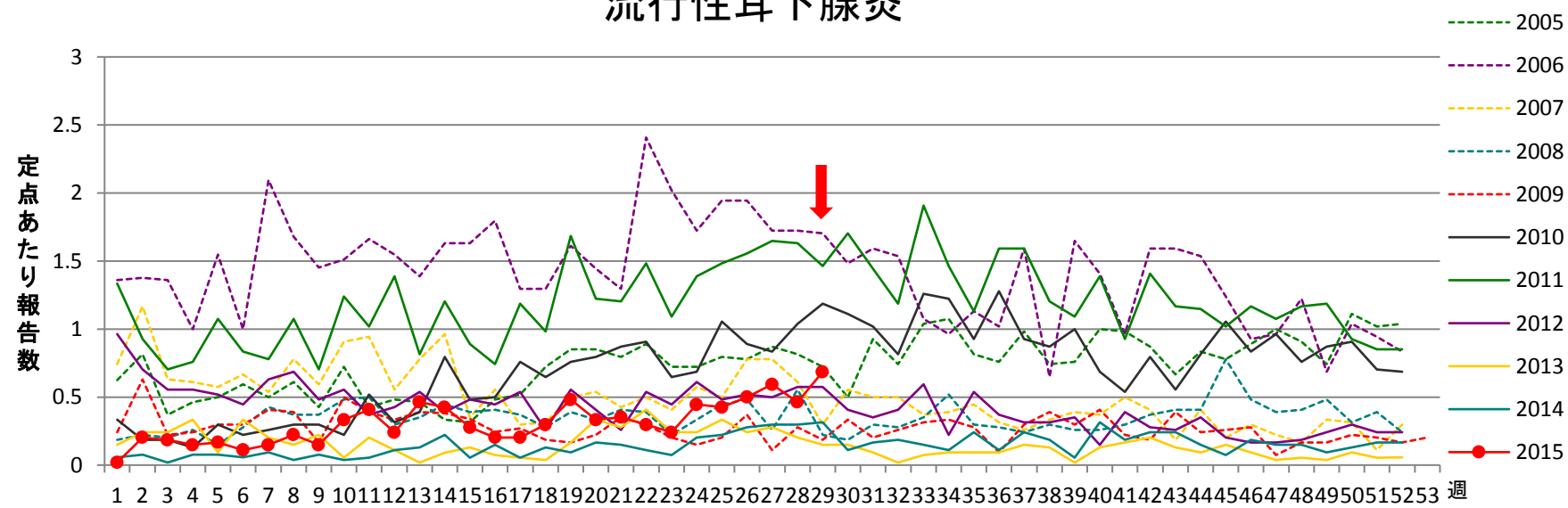
百日咳



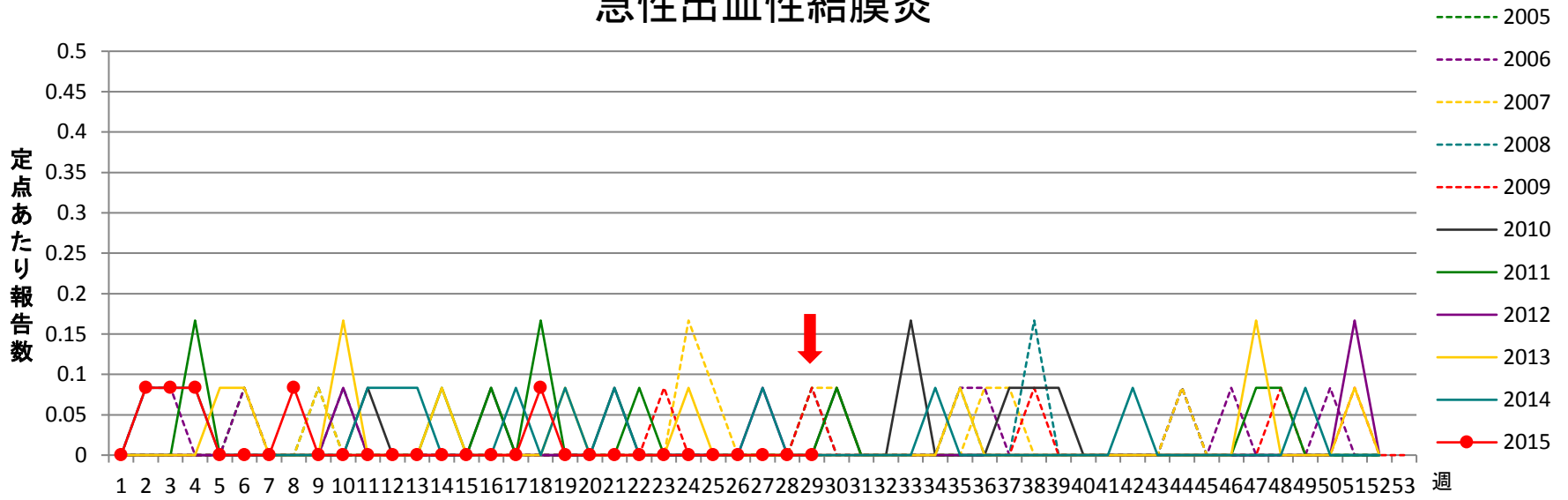
ヘルパンギーナ



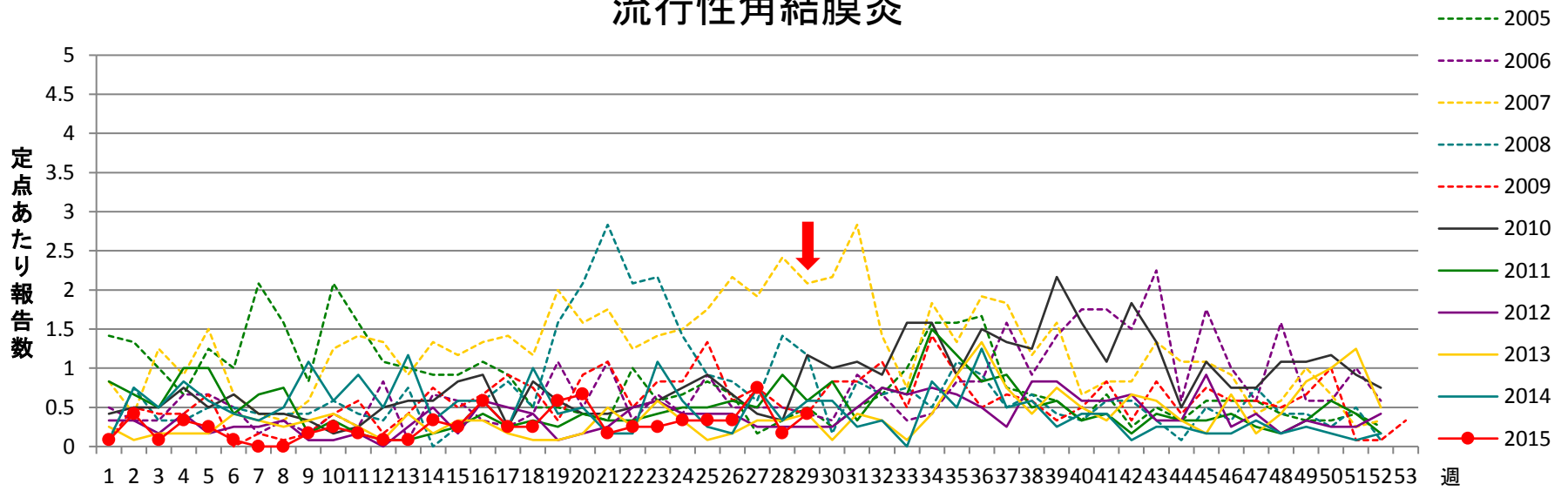
流行性耳下腺炎



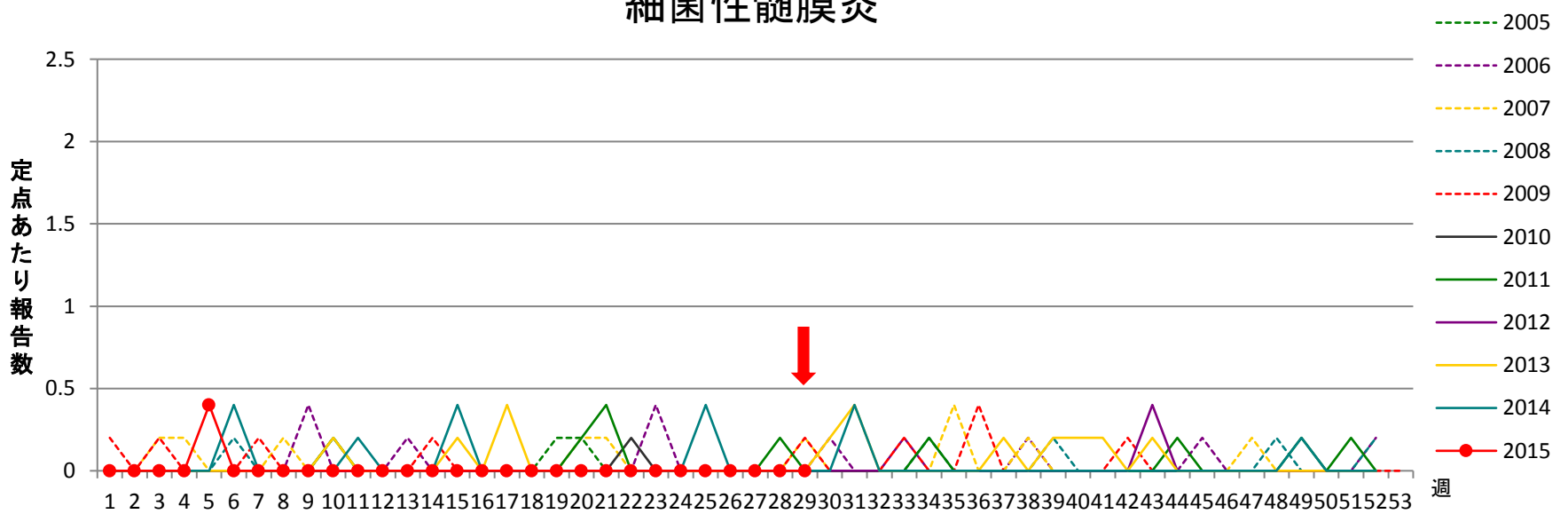
急性出血性結膜炎



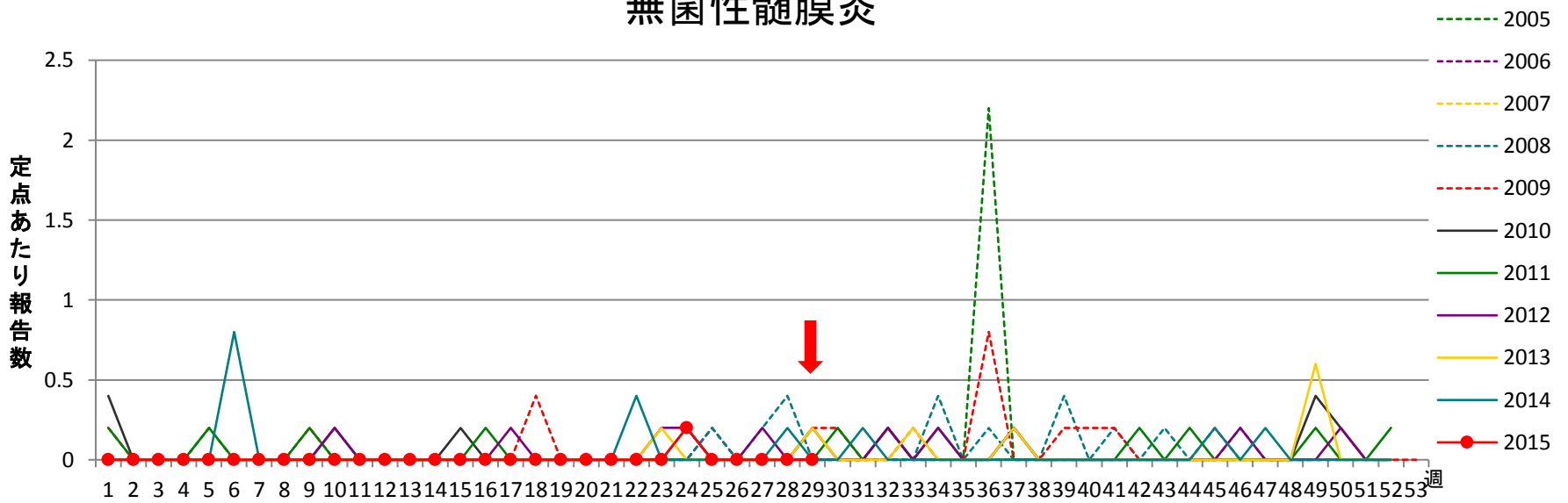
流行性角結膜炎



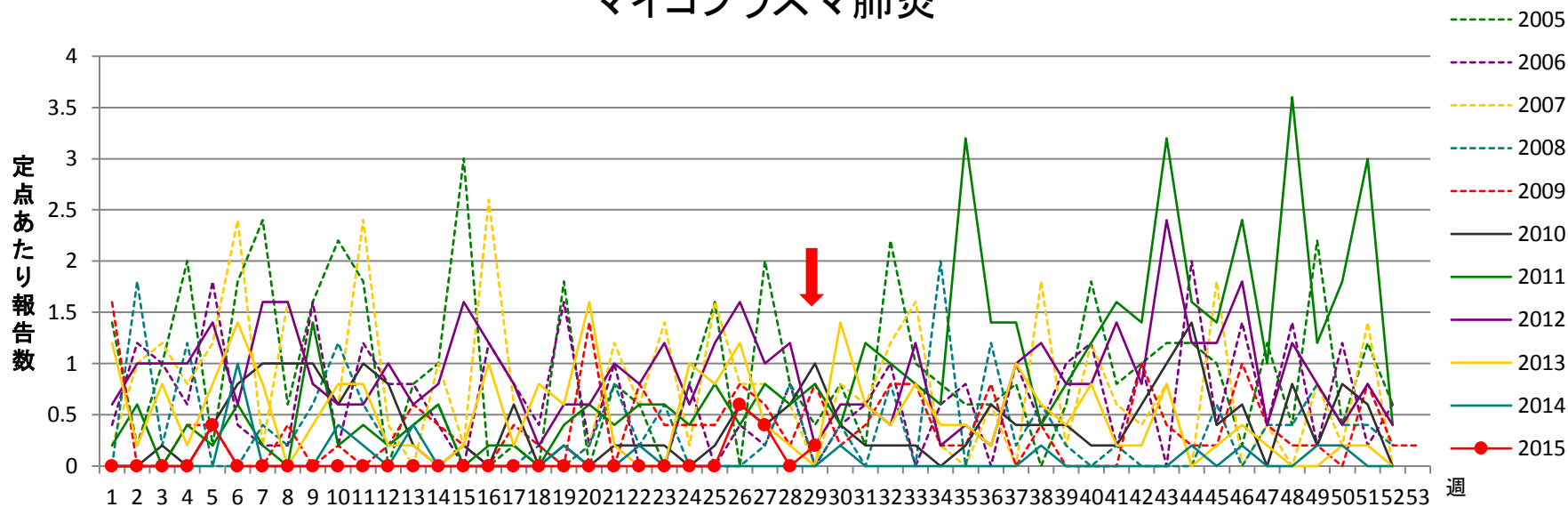
細菌性髄膜炎



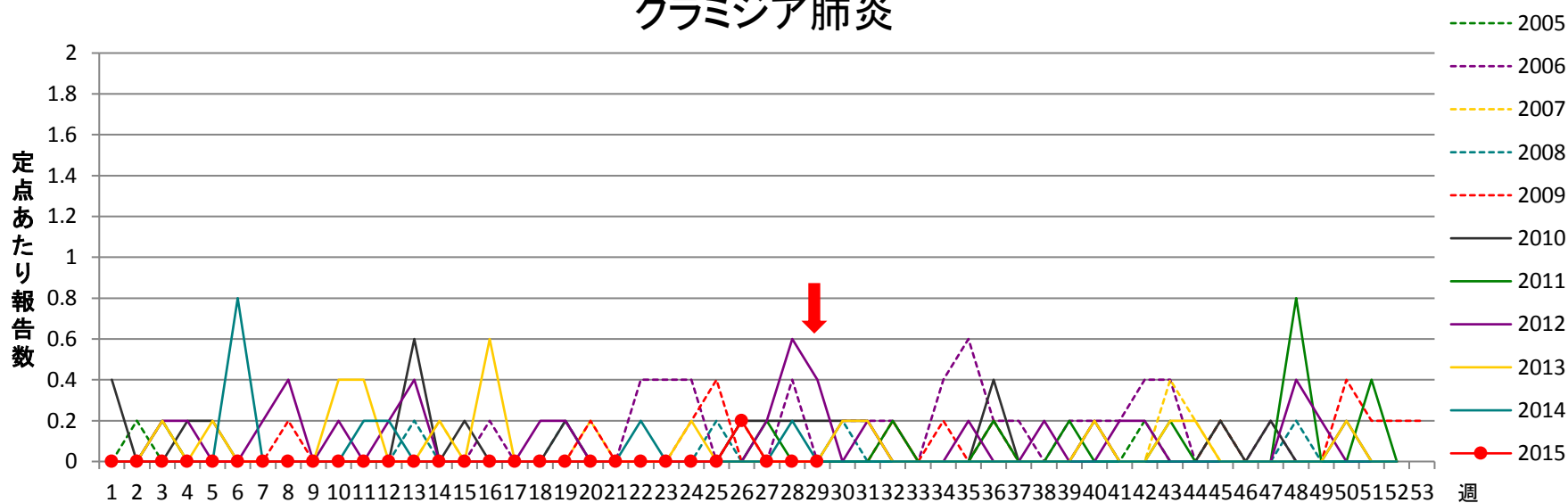
無菌性髄膜炎



マイコプラズマ肺炎



クラミジア肺炎



感染性胃腸炎(ロタウイルス)

